

2020年3月期第2四半期

決算説明資料

～運輸成績及び事業計画等～



2019年11月11日

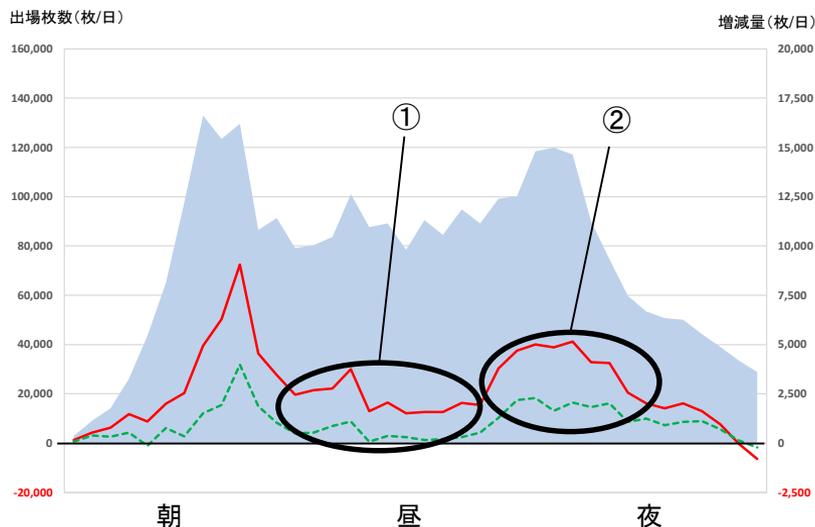
東京地下鉄株式会社

2019年度第2四半期（累計）において、定期外でご利用になるお客様が平日・休日ともに増加しました。

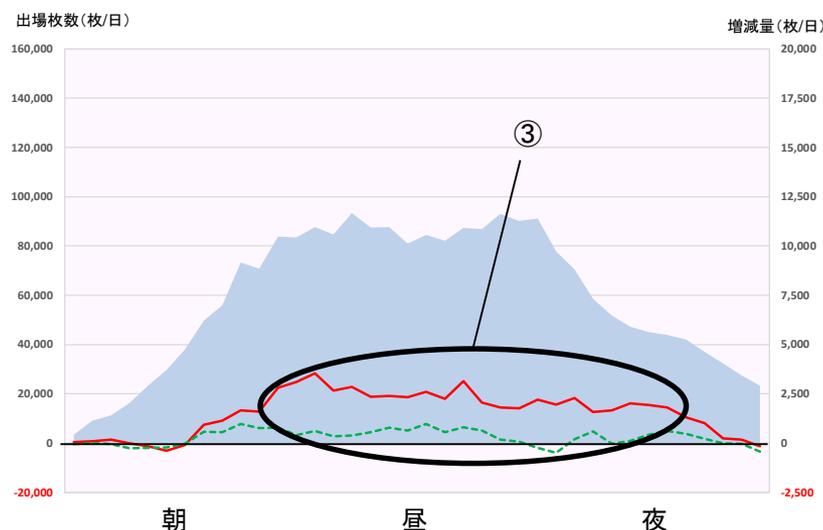
全線における自動改札機データ（時間帯別）

- 定期外の出場枚数は、平日・休日ともに増加し、特に平日が増加しました。
- 平日の出場枚数につきましては、朝・夕の時間帯のご利用が増加している一方、日中時間帯（①）においても増加が見られ、都心部のオフィス面積・需要の増加に伴い、業務での移動のご利用が増加したものと推測しております。また、夕方の時間帯（②）においても増加が見られるのは、勤務後のプライベートでのご利用が増加していることによるものと推測しております。
- 休日の出場枚数につきましては、日中～夜間の時間帯（③）に満遍なく増加しており、休日のプライベートのご利用も増加しているものと考えております。

平日（定期外）出場



休日（定期外）出場



<凡例>

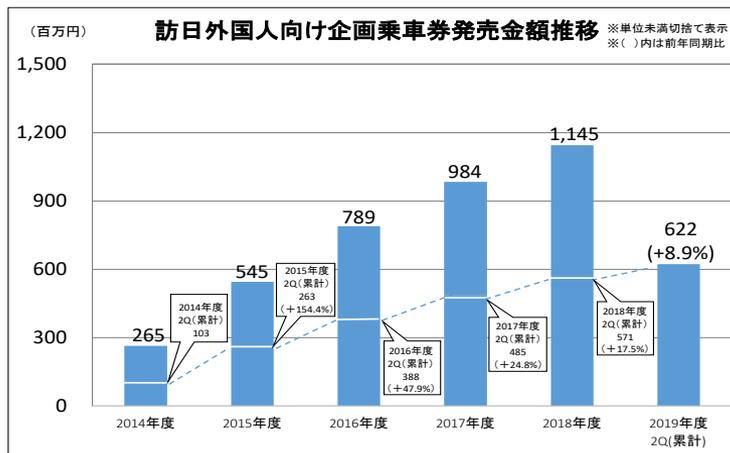
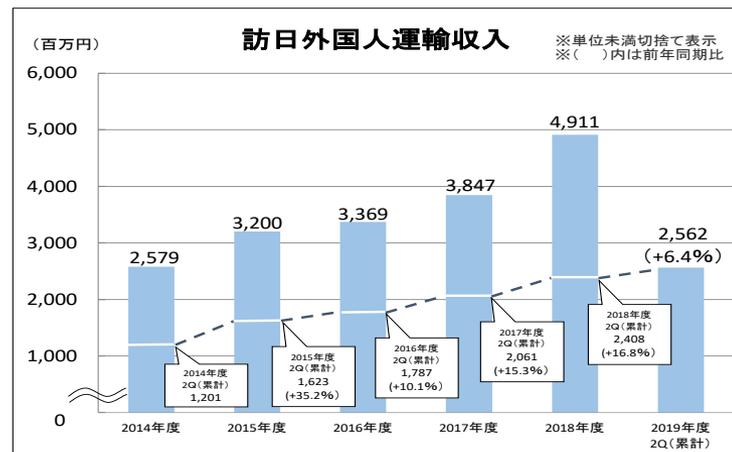
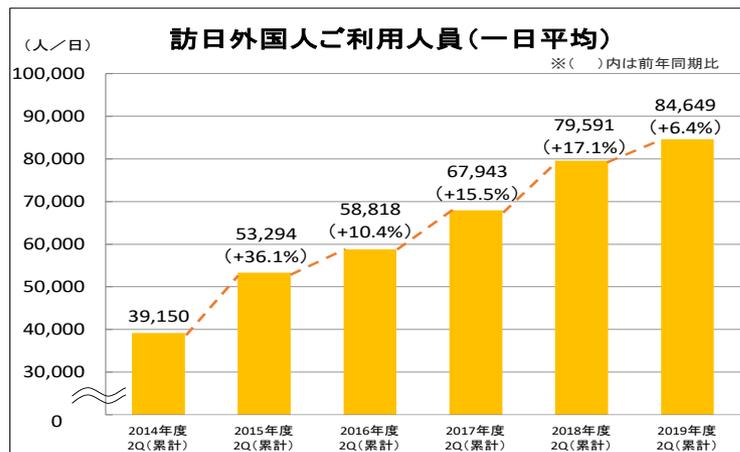
- 2019年度第2四半期(累計)一日平均出場枚数(枚/日): 左軸
- 2019年度第2四半期(累計)-2017年度第2四半期(累計)増減量(枚/日): 右軸
- 2018年度第2四半期(累計)-2017年度第2四半期(累計)増減量(枚/日): 右軸

※朝: 始発～10:00 昼: 10:00～17:00 夜: 17:00～終車

2019年度第2四半期（累計）において、訪日外国人のご利用および訪日外国人向け企画乗車券の発売額が引き続き増加しました。

訪日外国人のご利用状況

- 訪日外国人の運輸成績への影響につきまして、今期のご利用人員は一日平均約8.5万人、前年同期比で約0.5万人、6.4%の増加、旅客運輸収入は今期が25.6億円、前年同期比で1.5億円、6.4%の増加と推計しました。
- 訪日外国人向け企画乗車券の発売実績は、今期は6.2億円、前年同期比で0.5億円、8.9%増加しました。



※訪日外国人向け企画乗車券：Tokyo Subway Ticketのうち、海外旅行代理店、羽田空港、成田空港、都内家電量販店、当社旅客案内所・一部定期券うりば等で発売したもの

東京2020オリンピック・パラリンピックとその先も見据え、
2019年度の設備投資額は、1,880億円を計画しています。

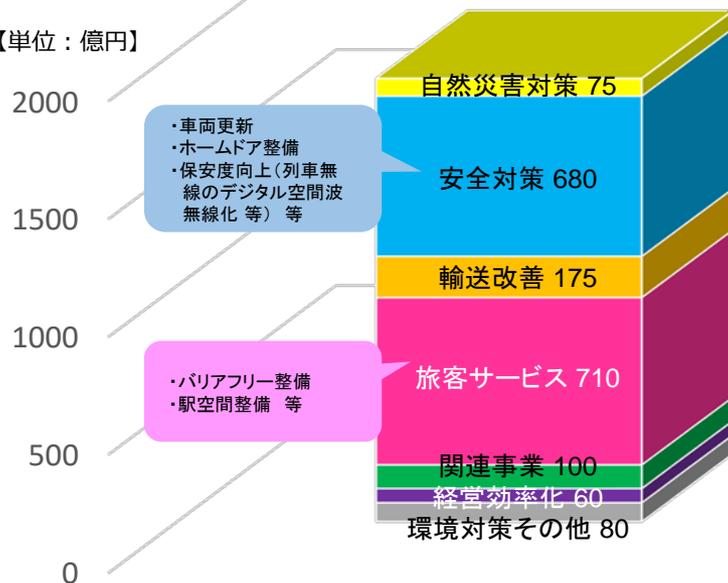
設備投資予算

- 東京2020大会とその先も見据えた各種施策が最盛期を迎える2019年度は、過去最高の規模となる1,880億円の設備投資を計画しています。
- 2019年度第2四半期においては、安全対策や旅客サービスを中心に累計578億円の設備投資を実施しました。

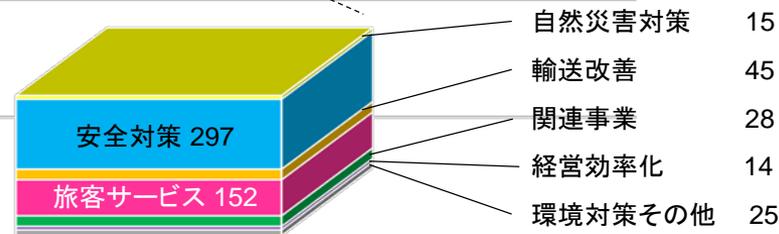
※億円単位切捨て表示

2019年度予算
1,880億円

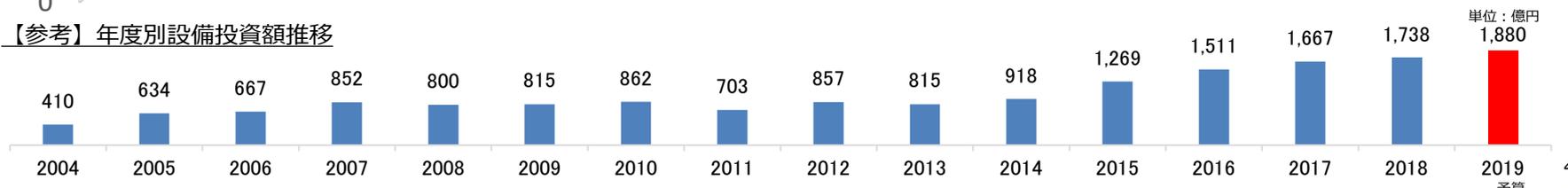
【単位：億円】



2019年度
第2四半期累計実績 578億円



【参考】年度別設備投資額推移



※グループ子会社による維持更新等の設備投資を除く



中期経営計画の項目及び2019年度の主な取り組み



中期経営計画の項目		2019年度の主な取り組み
安心の提供	自然災害対策の推進	震災対策、大規模浸水対策、大規模停電対策、異常時の体制強化
	駅ホームの安全性の向上	千代田線全駅へのホームドア整備、「見守る目」の強化
	新型車両の導入	丸ノ内線・日比谷線での新型車両導入、有楽町線・副都心線・半蔵門線での新型車両導入に向けた設計等の推進
	セキュリティの強化	駅構内セキュリティカメラ更新・増設、車内セキュリティカメラ設置拡大、線路内・車両基地セキュリティ強化、サイバーセキュリティ強化
	安全・安定性向上に資する施策	列車無線のデジタル空間波無線化工事、CBTCシステム導入準備
	輸送サービスの改善	東西線輸送改善、池袋駅～方南町駅間の6両編成列車直通運行開始、メトロポイントクラブを活用したオフピークキャンペーンの実施
	バリアフリー設備の整備	エレベーター1ルート・複数ルート整備、多機能トイレ全駅整備
	利便性・快適性の向上	銀座線渋谷駅移設、トイレ全個室の洋式化、九段下駅乗換改善
持続的な成長の実現	お客様ニーズをとらえた取り組み	QRコードによる旅行者向け券売機発券スキームの構築、東京メトロ沿線のイベント等におけるポイント進呈
	関連事業の拡大	PMO新宿御苑前開業、明治神宮前メトロピア新規区画開業
	海外での事業展開	ホーチミン市都市鉄道運営会社能力強化支援、フィリピン鉄道訓練センター設立・運営能力強化支援、ジャカルタ南北線運営維持コンサルティング
	新規事業の創出・推進	アウトドアフィットネスクラブの開業、子供向けロボットプログラミング教室の拡大、キッズスペース併設ワークスペースの運営
	新技術の開発・導入	設備状態監視(CBM)の充実、自動運転の実現に向けた研究・開発の推進
東京の魅力・活力の共創	沿線地域と連携したにぎわいの創出	地域の魅力の掘り起こしによる新たな需要の創出
	まちづくりとの連携	えき・まち連携プロジェクトの公表、日比谷線虎ノ門ヒルズ駅整備
	オープンイノベーションの推進	アクセラレータープログラムによる共創
	新たなモビリティサービスの実現に向けた取り組み	社内推進体制の整備、具体的サービスの検討、一部連携先との協業開始
経営基盤の強化	SDGs達成への貢献に向けたマテリアリティの特定、長期的な視点に立ったコストの最適化、働きがいの創出	

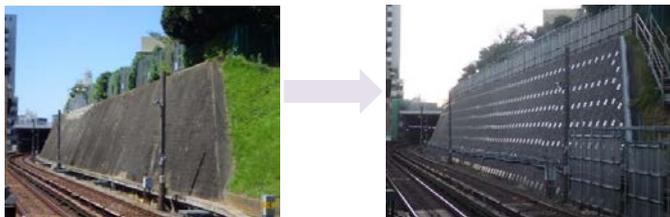
お客様に安心してご利用いただけるよう、ハード・ソフト両面で更なる自然災害対策を進め、首都東京の都市機能を支えます。

自然災害対策の推進

震災対策

【2019年9月末時点】
 高架橋柱 99%整備済 (2020年度完了予定)
 石積み擁壁 **M** 98%整備済 (2019年度完了予定)

首都直下型地震等に備え、震災発生時にも早期の運行再開ができるよう、高架橋柱や石積み擁壁の補強を推進しています。また、これらに加えて、地下部のトンネル中柱に対してもさらなる補強を行います。



◀石積み擁壁補強

大規模浸水対策

【2019年9月末時点】
 駅出入口 45%整備済 (2027年度完了予定)

自社出入口に加え、近隣ビルとの接続出入口を含め、対策が必要な全ての駅出入口・坑口（トンネルの入口部分）等への浸水対策を進めています。



▲完全防水型出入口

大規模停電対策

【2019年9月末時点】
 非常用車上バッテリー **G** 100%整備済 (2023年度完了予定)
M 23%整備済

大規模停電が発生した際も、駅構内・電車内の非常灯や放送装置、非常通報装置はバッテリーにより稼働します。これに加えて、停電によって列車が駅間に停止した場合でも、最寄駅まで走行が可能となるよう、非常用車上バッテリーの整備や変電所への列車駆動用救済電源の整備を進めています。

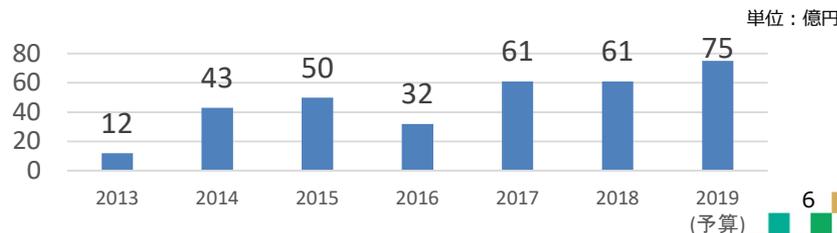


▲非常用走行バッテリーイメージ

異常時の体制強化

自然災害発生時には、運転再開までの時間の短縮や地下鉄施設の被害抑制等を図るべく、異常時対応訓練の実施やタイムラインの拡充を図ります。また、安全かつ適時・適切にお客様をご案内できるよう、多言語対応を含め、異常時の情報提供を拡充します。

《参考》「自然災害対策」に関する設備投資額の推移



輸送サービスの改善として、各路線で大規模改良工事やオフピークプロジェクト等に引き続き取り組みます。
また、有楽町線・副都心線では、新型車両を導入します。

輸送サービスの改善

東西線の輸送改善

混雑緩和が喫緊の課題である東西線において、混雑率180%以下を目指し、各駅の大規模改良等、総額約1,200億円の輸送改善プロジェクトを着実に実施しています。



【飯田橋駅～九段下駅間】折返し設備整備
2025年度供用開始予定

【南砂町駅】線路・ホーム増設等の大規模改良
2027年度供用開始予定

【茅場町駅】ホーム延伸等の大規模改良
2022年度供用開始予定

【木場駅】ホーム・コンコース拡幅等の大規模改良
2025年度供用開始予定

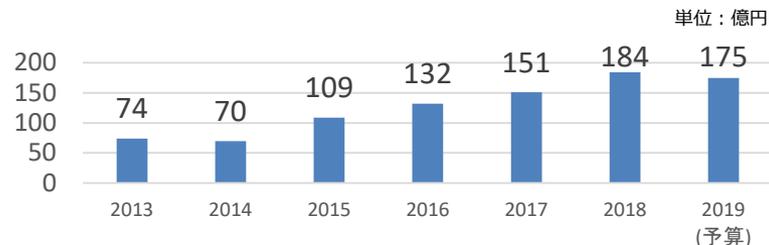
その他の施策

混雑緩和、遅延抑制に有効な「オフピーク通勤（通学）」※のさらなる推進を図るため、東西線や混雑駅において、メトロポイントクラブを活用したオフピークプロジェクト等に取り組んでいます。

※オフピーク通勤（通学）：朝ラッシュのピーク時間帯前及び後の時間帯にご乗車いただくこと



《参考》「輸送サービスの改善」に関する設備投資額の推移



池袋駅～方南町駅間6両編成列車直通運行の開始

丸ノ内線方南町駅のホーム6両化完成に伴い、6両編成での池袋駅～方南町駅間の直通運転を開始しました。

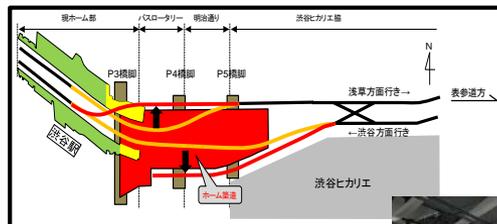
方南町駅ホーム▶



利便性・快適性の向上

渋谷駅移設工事

銀座線渋谷駅は、2019年12月28日（土）～2020年1月2日（木）の6日間で線路切替及びホーム移設工事を行い、2020年1月3日（金）の始発から新ホームの供用を開始します。



渋谷駅移設工事現場▶



車両更新

有楽町線・副都心線17000系

有楽町線・副都心線では、走行安全性や車内快適性を向上させた新型車両17000系を2020年度より導入します。



関連事業の積極的な拡大によって東京メトログループ全体の収益力向上に取り組みます。

関連事業の拡大

不動産事業

- 2019年 6月 PMO新宿御苑前開業
- 2019年 11月 渋谷スクランブルスクエア第I期（東棟）開業（東急・JR東日本との共同開発）
- 2020年度 メトロシティ六本木開業予定



▲PMO新宿御苑前



▲明治神宮前メトロピア新規区画

流通事業

- 2019年 7月 明治神宮前メトロピア新規区画開業
- 2020年度 大手町メトロピア新規区画開業予定
- 有楽町メトロピア開業予定

地域や外部との積極的な連携を通じて、首都東京の魅力・活力の創出に貢献します。

まちづくりとの連携

えき・まち連携プロジェクト

バリアフリー設備の整備だけでなく、駅混雑等の各駅の抱える課題を公表し、行政や都市開発事業者等に早期の段階で当社から働きかけることで、魅力的な地下鉄駅空間を整備します。

日比谷線虎ノ門ヒルズ駅開業

日比谷線虎ノ門ヒルズ駅の整備を進め、2020年6月6日（土）に開業します。



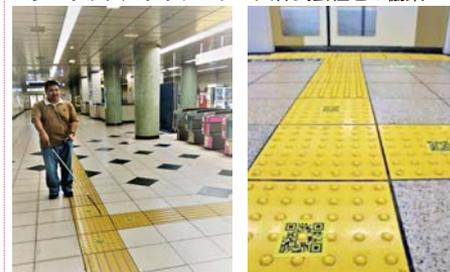
▲開業時北千住方面行きホームイメージ

オープンイノベーションの推進

shikAI導入検証

視覚に障がいのあるお客様向けナビゲーションシステム「shikAI」（シカイ）※導入に向けた最終検証を2019年8月より実施しています。

※プログレス・テクノロジーズ株式会社との協業

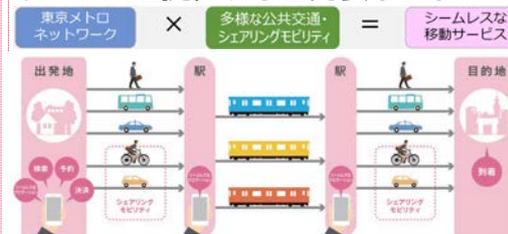


▲実証実験イメージ

▲QRコード設置イメージ

新たなモビリティサービスの実現に向けた取組み

公共交通やシェアリングモビリティなどとの幅広い連携に向け社内推進体制を整備し、具体的サービスの検討を進めています。まずは2019年7月に、シェアリングサイクルとの連携の一環で、ドコモ・バイクシェアとシームレスな移動サービスを提供すると発表しました。



公表箇所数	順次拡大
えき・まち連携プロジェクト (2019年度上期開始)	連携の内容
公募型連携プロジェクト (2016年4月開始)	
バリアフリー設備の整備	駅混雑への対応
	まちの賑わい

▼第1弾募集概要（順次対象駅拡大）

募集期間（5年間）	2019年8月1日～2024年7月31日
対象駅	神田駅、仲御徒町駅、竹橋駅、北千住駅、神保町駅、四ツ谷駅

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、 すべてのお客様に、より安心・快適にご利用いただくため、 円滑な大会輸送を提供するとともに、大会の成功に貢献します。



大会期間中の輸送対応

「2020 TDM推進プロジェクト」への参画

東京メトロは、東京2020大会の円滑な大会運営及び輸送の実現と経済活動の維持との両立を図るための交通需要マネジメントを目的に、東京都、内閣官房、東京2020大会組織委員会、経済界等が推進している「2020 TDM推進プロジェクト」に参画しています。

東京2020大会期間中、混雑が予想される時間帯、経路、駅等を避けたご利用をお客様にご協力いただけるよう、メトロポイントクラブ（愛称「メトポ」）を活用したキャンペーンや混雑状況の見える化等の各種取組みを実施します。

東京2020大会開催のおよそ1年前にあたる2019年7月と8月に、東京2020大会期間中、特に混雑が予想される会場最寄駅で「メトポ」を活用したオフピークプロジェクトを実施しました。

列車の増発と終電の繰り下げ

各競技の開催場所や開催時間等に対応した列車の増発と終電の繰り下げ※を行います。
※東京2020オリンピック期間（東京2020パラリンピック期間は検討中。）

各路線終電時刻（予定）

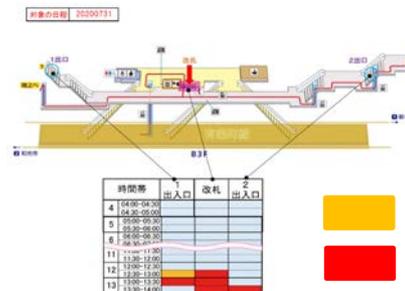
山手線内：概ね26時過ぎまでの運行
郊外方面：現在の終電から
60分程度の繰り下げ



▲東京2020大会 会場最寄駅における
メトポを活用したオフピークプロジェクトの対象駅

混雑予想の公表

混雑が予想される駅構内の混雑予想箇所及び時間を東京メトロ公式サイトにて公表※しています。
今後、順次更新をしていきます。
※東京2020オリンピック期間（東京2020パラリンピック期間は今後公表予定。）



▲混雑状況予想イメージ

■ やや混雑している
■ とても混雑している